

みんなが
「できた！分かった！」を
実感できる授業づくり
～居心地のよい学級を土台にして～

綾部市立綾部小学校
小畑 美和

本日の流れ

- 1 はじめに
- 2 学級づくり
- 3 授業づくり
- 4 研究員の先生の声
- 5 おわりに

集中するのが
苦手な
子ども

書くのが
苦手な
子ども

授業に
ついていけない
子ども

授業に
参加する
気がない子ども

全ての子ども

授業内容が
すでに理解
できている
子ども

学校に来づらい
子ども

人と話すの
が苦手な
子ども

こだわりの
ある
子ども

などなど...

研究員の先生方の声

担任をする上で、どんなことの指導で悩んでいますか？

学力の差が大きくて、どこに合わせて授業をすればよいのか。

学習に向かえない児童にどう支援をしたらよいか。

話に集中できない児童にどんな手立てを立てればよいか。

真面目にがんばっているのに、学力が身に付かない児童にどんな指導をすればよいか。

友だちと関わるのが苦手な児童にどんな支援ができるか。

学校に来づらい児童とどんな関わりをすればよいか。

2 全ての子どもが 安心して学べる 学級づくり

全ての子どもが安心して学べる学級づくり

- ① 言葉を大切にする
- ② 子ども同士をつなげる
- ③ 1人1人を大切にする

①言葉を大切にする学級経営

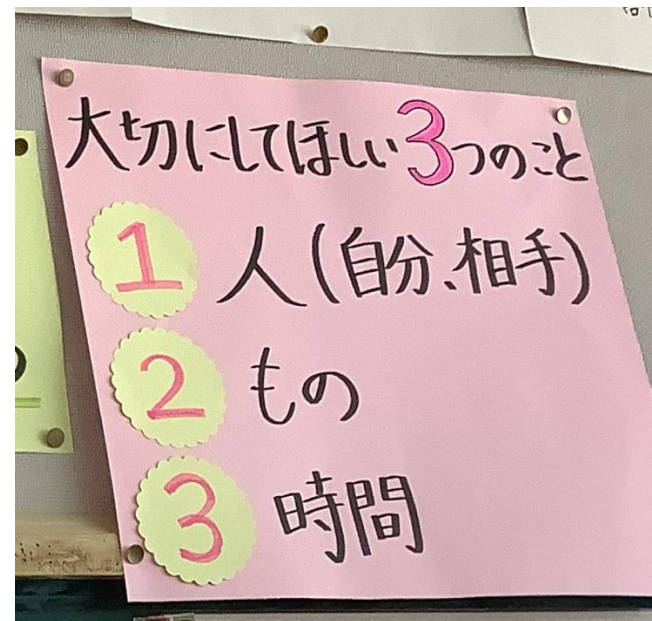
プラス言葉を使う。

人を大切にする言葉を使う。

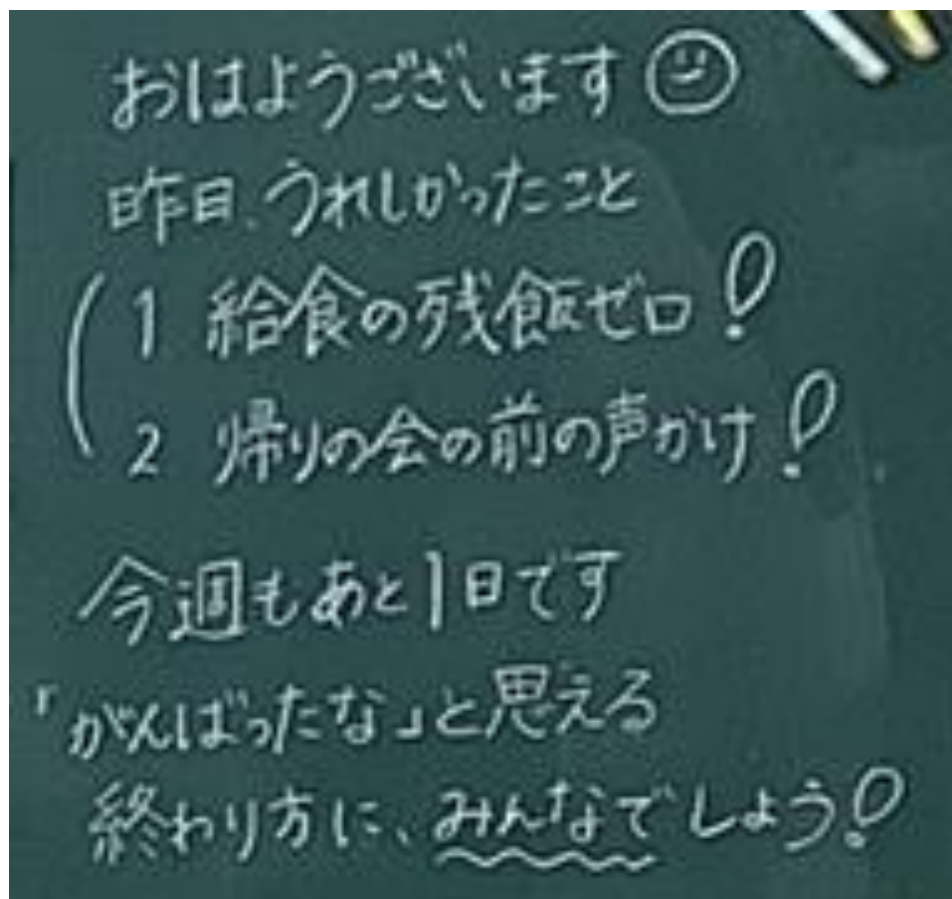
児童の考えは、一旦受け止める。

よい言葉遣いは
全体の場で褒める。

指導者が率先して
丁寧な言葉
を使う。



①言葉を大切にする学級経営 実践例Ⅰ 朝、教室に入ると…



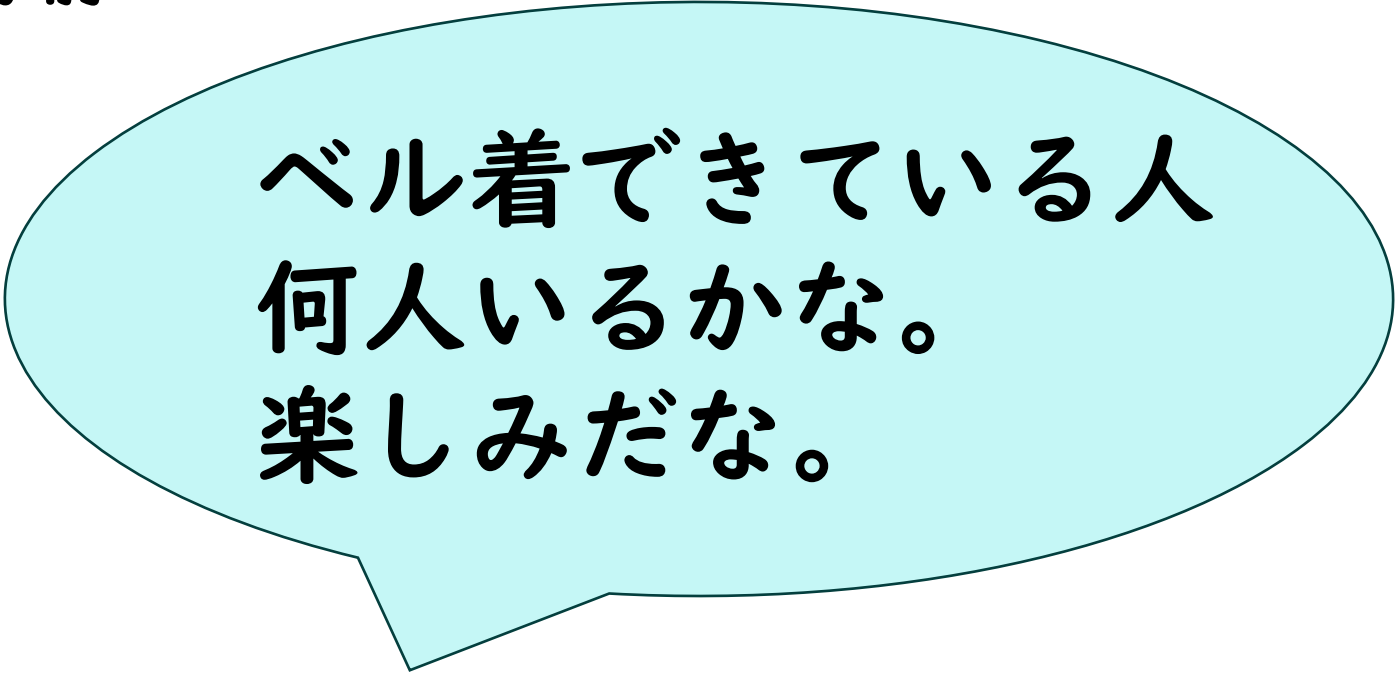
黒板に ぽかぽかメッセージ

- ・ 前日、担任がうれしかったこと
- ・ どんな1日を過ごしてほしいか など

①言葉を大切にする学級経営

実践例2 未然の声かけ

始業1分前に・・・



ベル着できている人
何人いるかな。
楽しみだな。

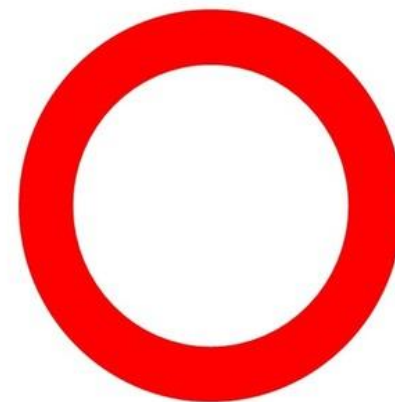
望ましくない状況が起きてからではなく 未然に防ぐ

- ① **言葉**を大切にする学級経営
実践例3 行動を**実況中継**をする。

そんな言葉は
使いません！



〇〇さん、
今、マイナス言葉
が出ているよ。

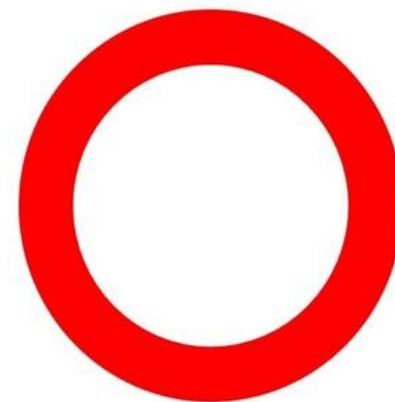


- ① 言葉を大切にする学級経営
実践例3 行動を実況中継をする。

遅いです。
早くしなさい！



〇〇さん、
みんな
待ってるよ。



全ての子どもが安心して学べる学級づくり

- ① 言葉を大切にする
- ② 子ども同士をつなげる
- ③ 1人1人を大切にする

②子ども同士をつなげる学級経営

実践例Ⅰ 朝の会 コミュニケーションタイム

コミュニケーションタイム

① 限定しりとり
班で行います。テーマは日直が決めます。（例：動物、食べ物、3文字、5文字以上）2分間でたくさんつなげます。

② 連想ゲーム
班で行います。テーマは日直が決めます。（例：学校といえば、お菓子といえば）2分間でたくさんの言葉を見つけます。

③ 言葉みつけ
班で行います。テーマは日直が決めます。（例：気持ちを表す言葉、すから始まる言葉）2分間でたくさんの言葉を見つけます。

④ わたしはだれでしょう
班で行います。班のだれが問題を出すか、日直が決めます。問題を出す人は、何か思い浮かべます。他の人は、はいかいいえで答えられる質問をして2分以内に当てます。早く終わったら右にいる人が問題を出します。

⑤ カタカナナシ
班で行います。班のだれが問題を出すか、日直が決めます。テーマは先生が伝えます。問題を出す人は、カタカナの言葉を使わずに班の人に2分以内に伝えます。早く終わったら右にいる人が問題を出します。

⑥ ジェスチャーゲーム
班で行います。班のだれから始めるか、日直が決めます。動きだけでお題を伝えて、当ててもらいます。時計回りで回っていきます。

⑦ 1分間スピーチ
日直がスピーチをします。（1分）終わったら隣にいる人は質問をします。

大切なのは、
友達とのやりとりを
通して**楽しい**
気もちになること。

②子ども同士をつなげる学級経営 実践例 2 1週間でミッションビンゴ

「3回相手がうれしい
ことをする。」「友だ
ち10人に挨拶する。」
など、**友達とつながれ
るようなミッションを
意図的に組み込む。**

ビンゴミッション⑦ 6月30日～7月4日

- ・達成したところは、赤で○をしましょう。
- ・1週間で、たくさんビンゴできるようにしましょう。
- ・全て○がついたら、先生に報告しましょう。

ビンゴの人数が減って
きました…今週はビン
ゴの人数が増えたらいい
な…

① 図書室で本を1さつ かりる。	② 1日、ろうかを歩い て過ごす。	③ 5回、ベル着・ベル 準をする。
④ 5回、自分の名前を 最高にいていない字 で書く。	⑤ 学校朝礼で無言集 し、静かに話を聞 く。	⑥ 「平家物語」の前半 (4行)を暗唱す る。
⑦ 3回相手がうれし いことをする。	⑧ ろうかや教室で出 会った人に10回あい さつをする。	⑨ 2回宿題を全てそ ろえて出す。
月・火・水・木・金		

全ての子どもが安心して学べる学級づくり

- ① 言葉を大切にする
- ② 子ども同士をつなげる
- ③ 1人1人を大切にする

③ 1人1人を大切にする学級経営

欠席をしている児童

「大丈夫かなあ。」
「明日は来れるとい
いな。」

通級児童や交流学級に
授業に来た児童

「行ってらっしゃい」
「おかえり」

苦手をもって

いる児童
個に応じた
配慮

登校しづらい児童

つながりを大切に。
例) 放課後登校
動画でつなぐ

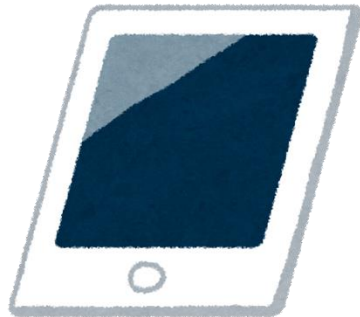
教室に不在の児童の
机の整理整頓、机上
の配布物の整理
いつもきれいに。

指導者が意識を
向ける。



児童の意識が
向く。

エピソード：別室登校のAさんと 学級をつなぐ



3 全ての子どもが
「できた！」 「分かった！」 を
実感できる授業づくり

集中するのが
苦手な
子ども

書くのが
苦手な
子ども

授業に
ついていけない
子ども

授業に
参加する
気がない子ども

全ての子ども

授業内容が
すでに理解
できている
子ども

学校に来づらい
子ども

人と話すの
が苦手な
子ども

こだわりの
ある
子ども

などなど...

子どもたちの参加度が高い授業って？

アウトプットしている

インプットしている

多数

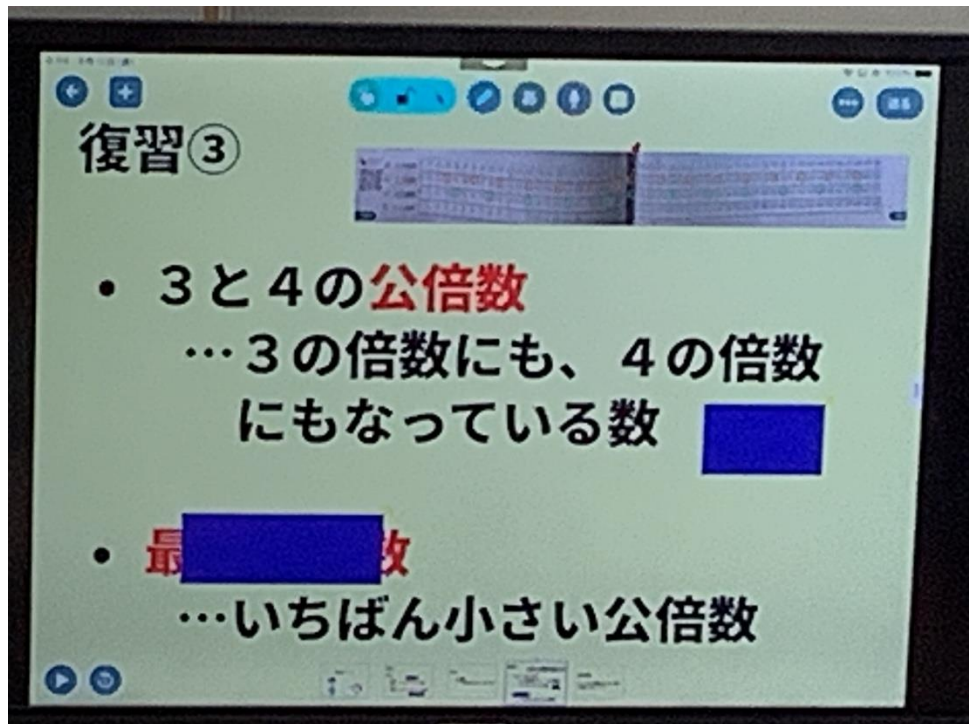


「やりたい！」と思える導入

- ①視覚的な前時のおさらい
- ②学習の見通しの共有（単元計画、単元のゴール）
- ③「解きたい！」「考えたい！」と思える課題との出会い

①視覚的な前時のおさらい

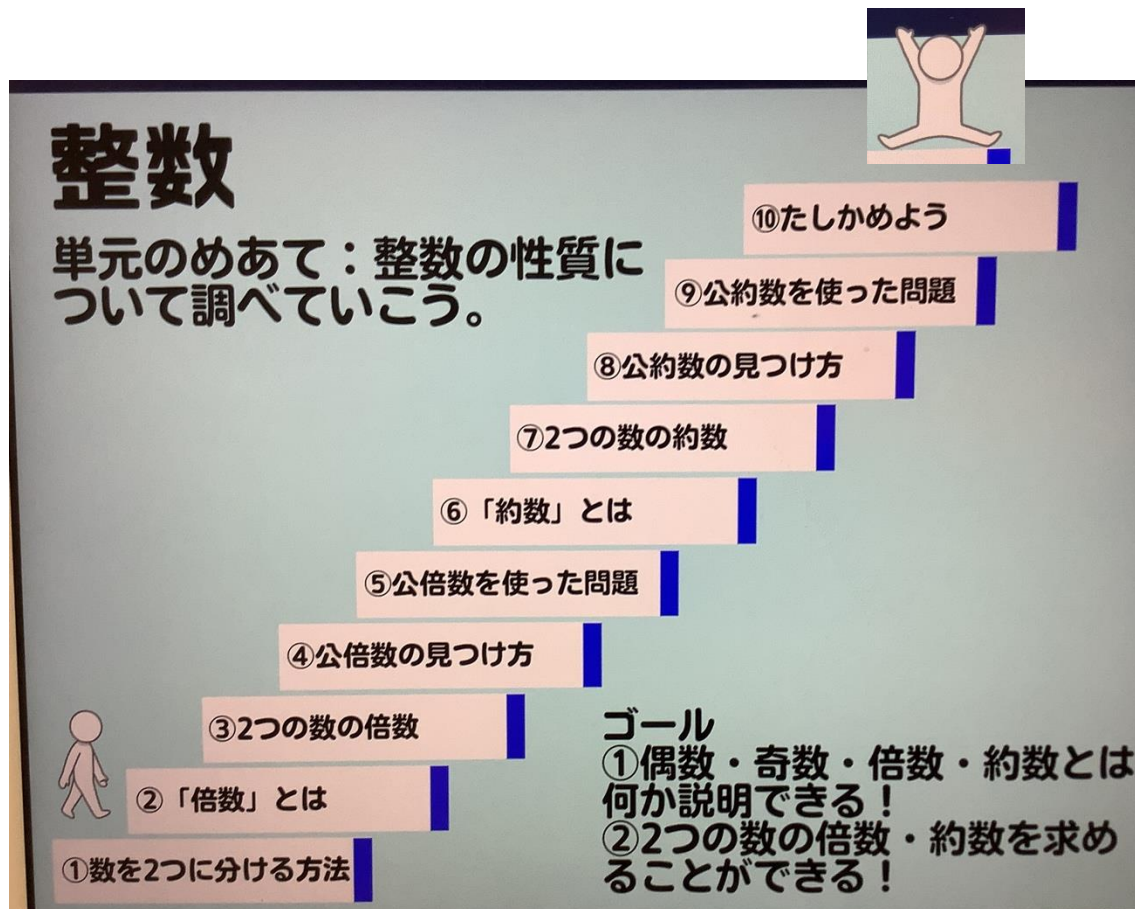
5年生 算数科「整数」：前時までに学習した内容を復習



ロイロノート活用：テキストのシートを消すと答えが出てくる。
→ 見てしまうしかけ

②学習の見通しの共有

単元計画表

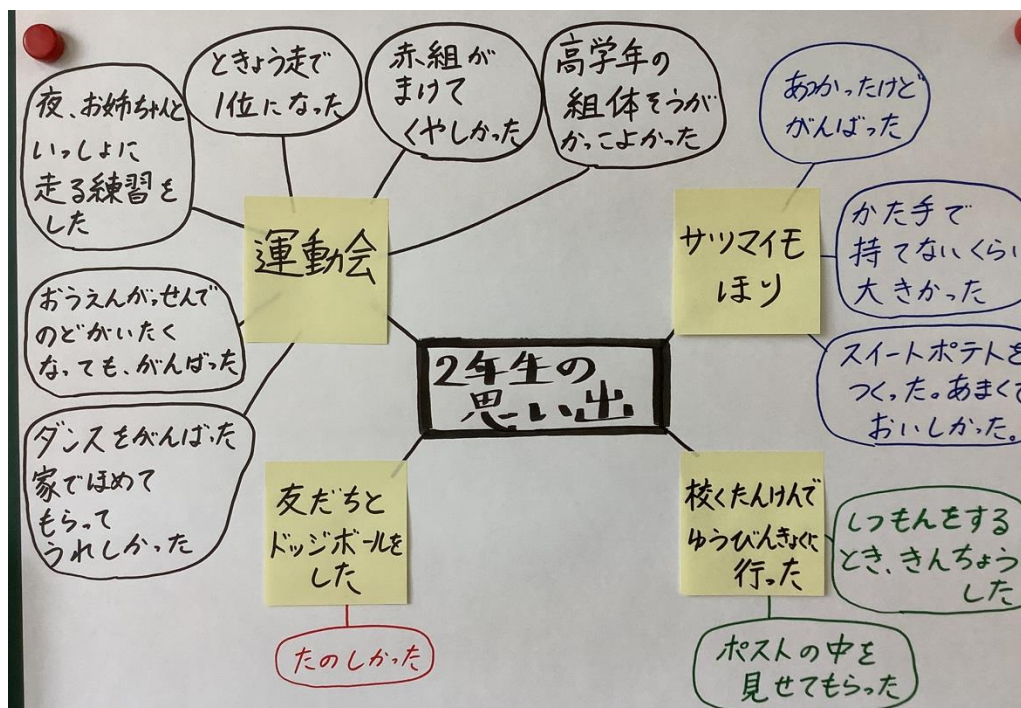


単元のゴールは何？
単元の流れは？
今日の時間は、ゴールにつながるどんな時間？

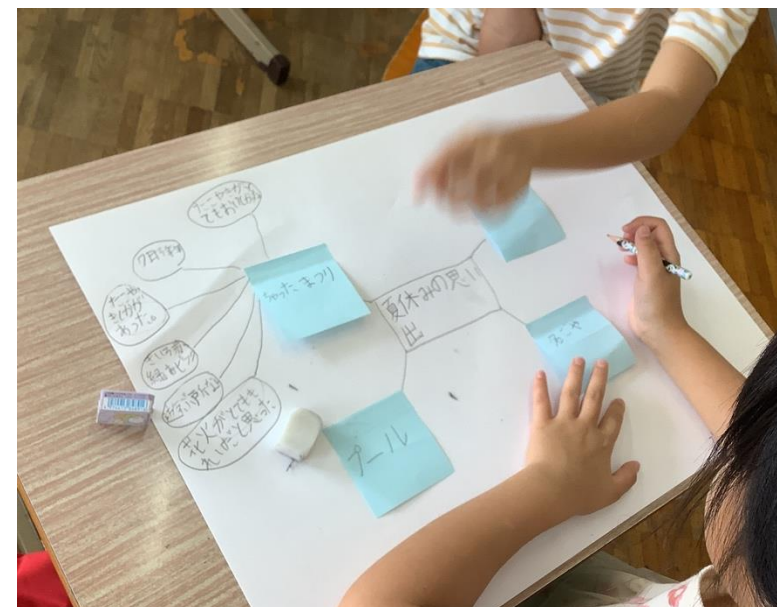
見通しがある→意欲がわく

②学習の見通しの共有

ゴールの提示



単元のゴールは何？
単元の流れは？
今日の時間は、ゴールにつながるどんな時間？



見通しがある→ 意欲がわく

③ 「解きたい！」 「考えたい！」 と思える課題との出会い

「先生、今度、休みの日に〇〇に遊びに行くんだけど・・・、時間が〇時間しかなくて、予算が〇円しかないんや。」

教科書の問題をアレンジ

- ・ 実生活に結び付ける。
- ・ 好奇心を掻き立てさせる。
- ・ 必要感を感じさせる。
- ・ 自分事として捉えさせる。

教科書の写真

6年 算数科「場合を順序よく整理して」

展 開

- ①45分間の活動を明確化
- ②多様な学習活動の設定
- ③視覚化
- ④児童同士をつなぐしかけ
- ⑤1人1人に合わせた支援の提示
- ⑥前向きな声かけ

参加度を高める
ために！

①45分間の活動を明確化

この時間はどんな流れで、どんな活動をして、何ができた
たらゴールなのかを共有



枠組みが整っている
→安心



②多様な学習活動の設定

学習活動は、「聞く」と「書く」だけではない。

- ・声に出す。
- ・体を動かす。
- ・話す、交流する。

体全体でアウトプット！

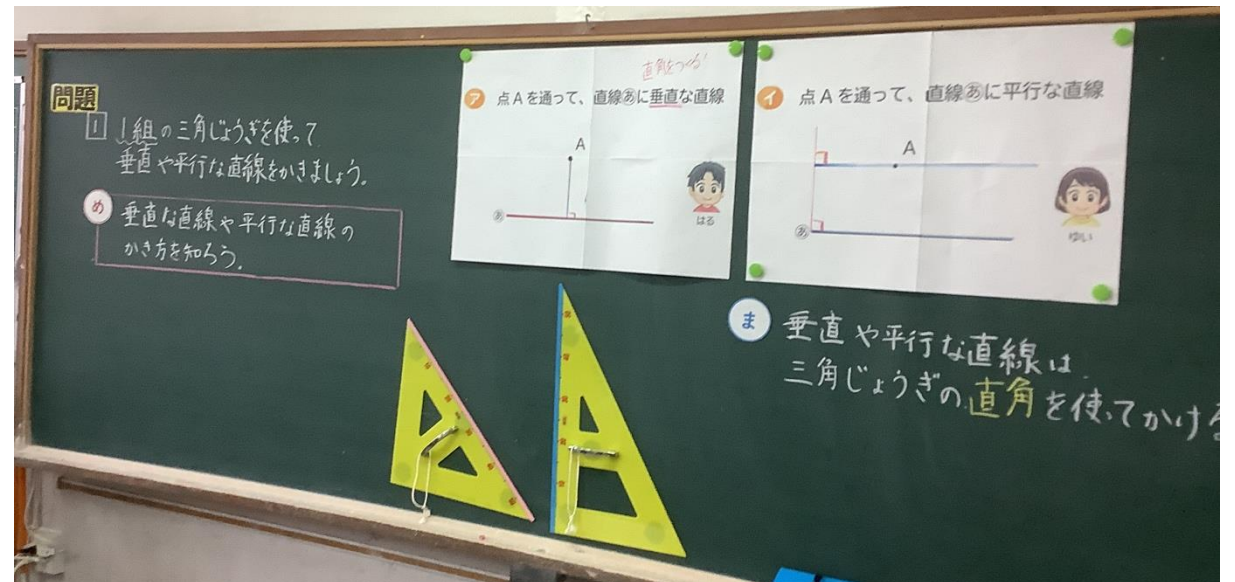
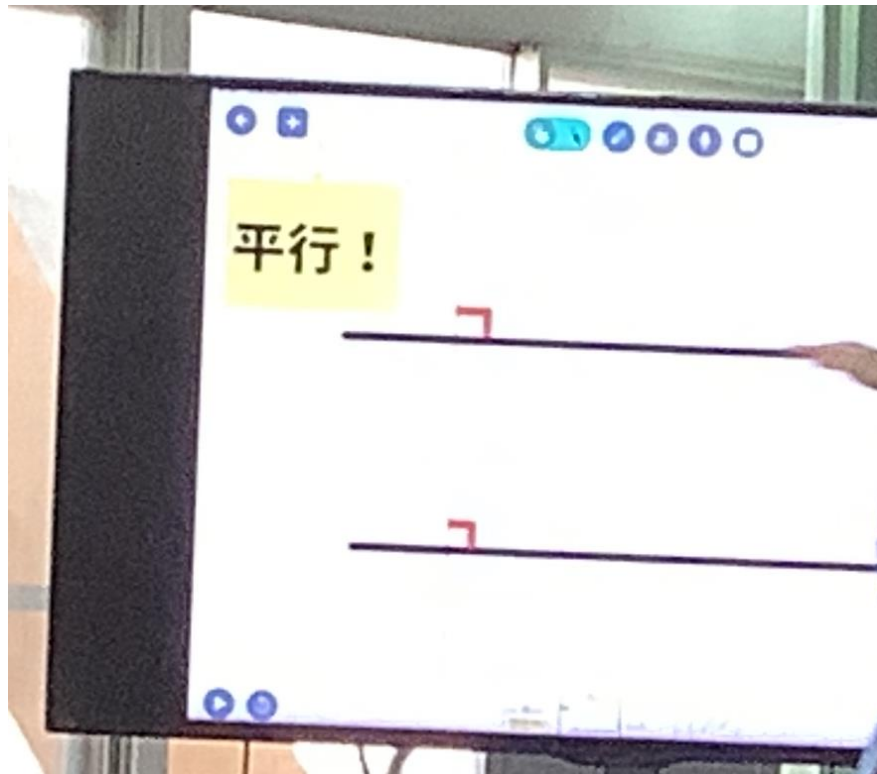
（決められた相手と、学習班で、自分の話したい友達と）

書くことが苦手な児童、じっとするのが苦手な児童への
手立て

②多様な学習活動の設定

体全体で
アウトプット！

動作化

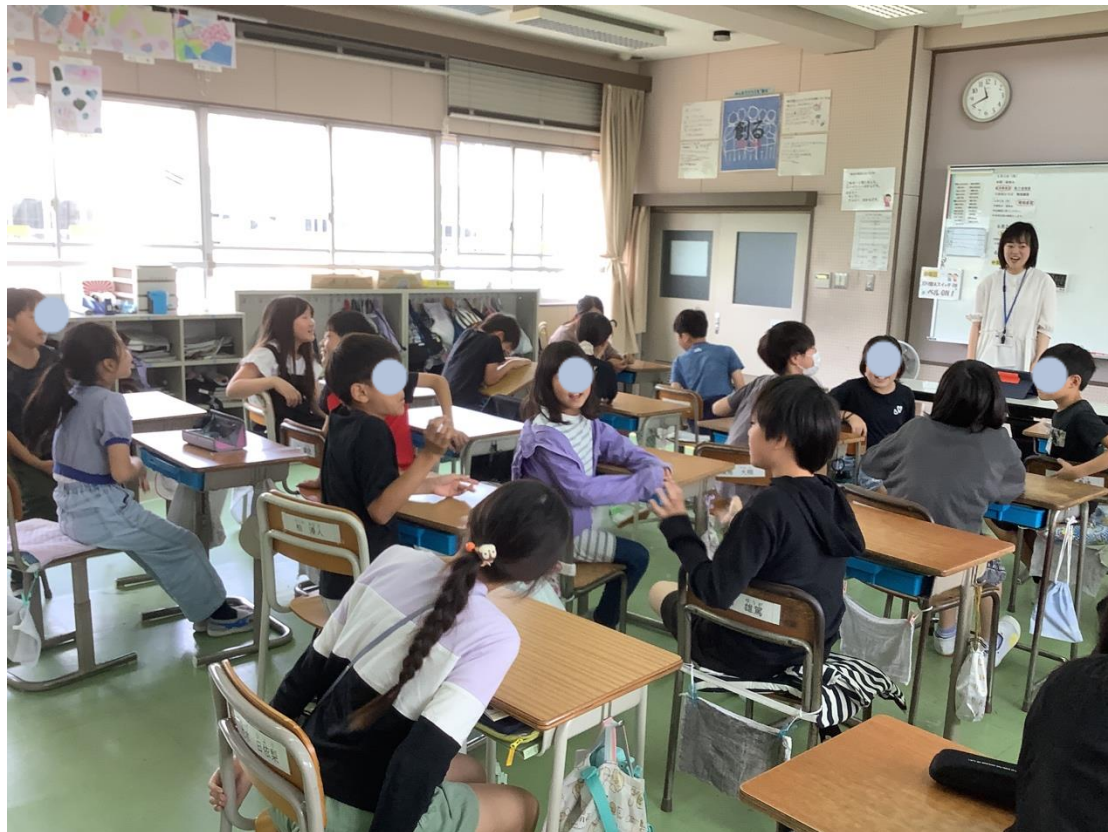


友達と…

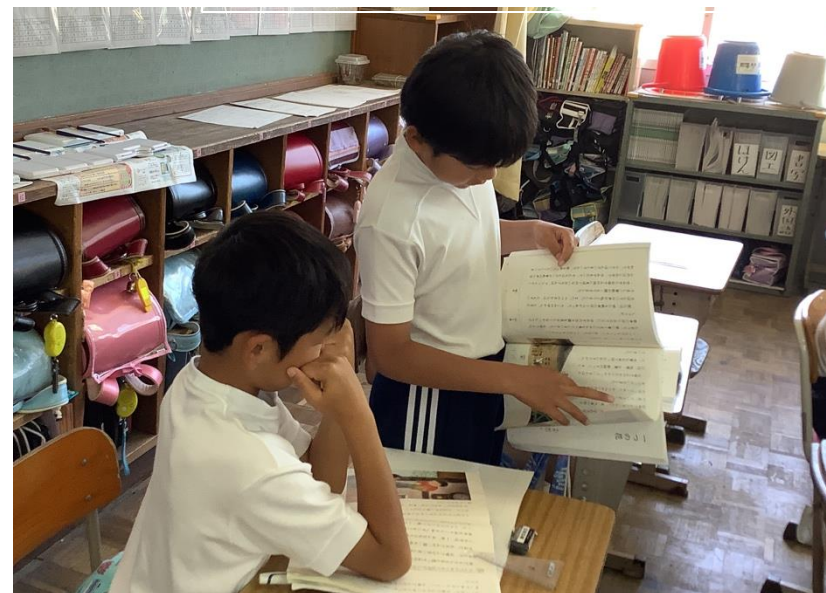


一人で…

ペアで...



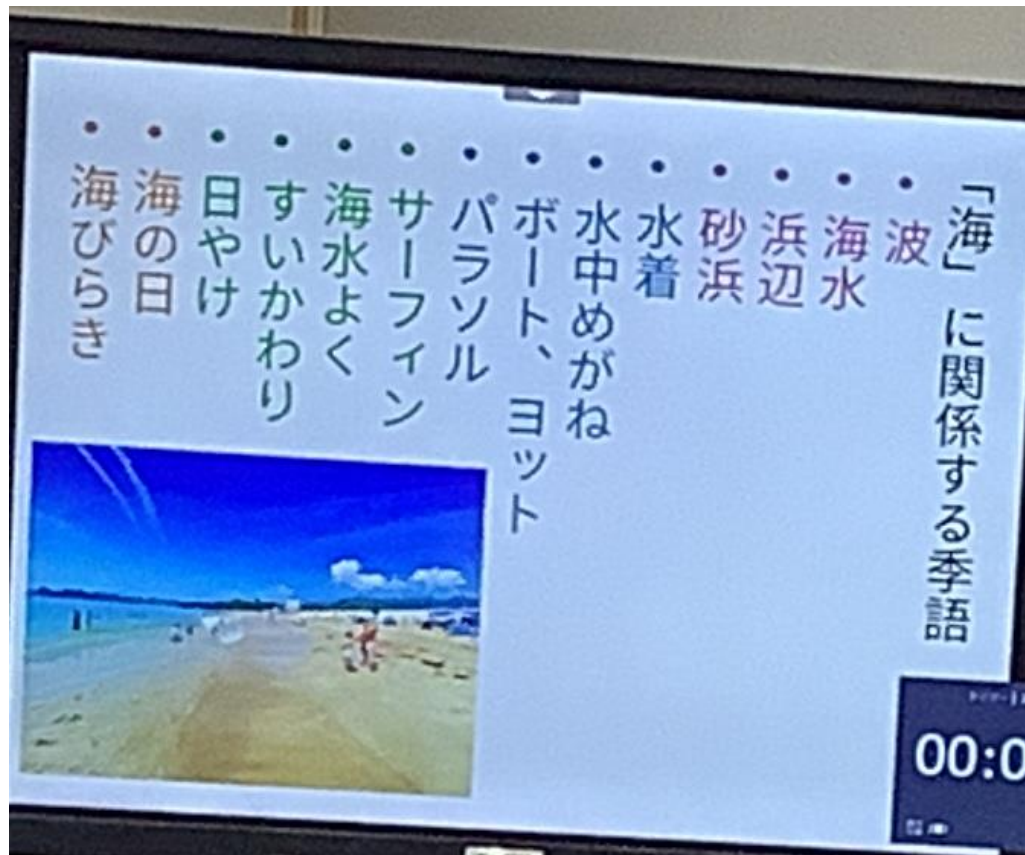
友達と一緒に...



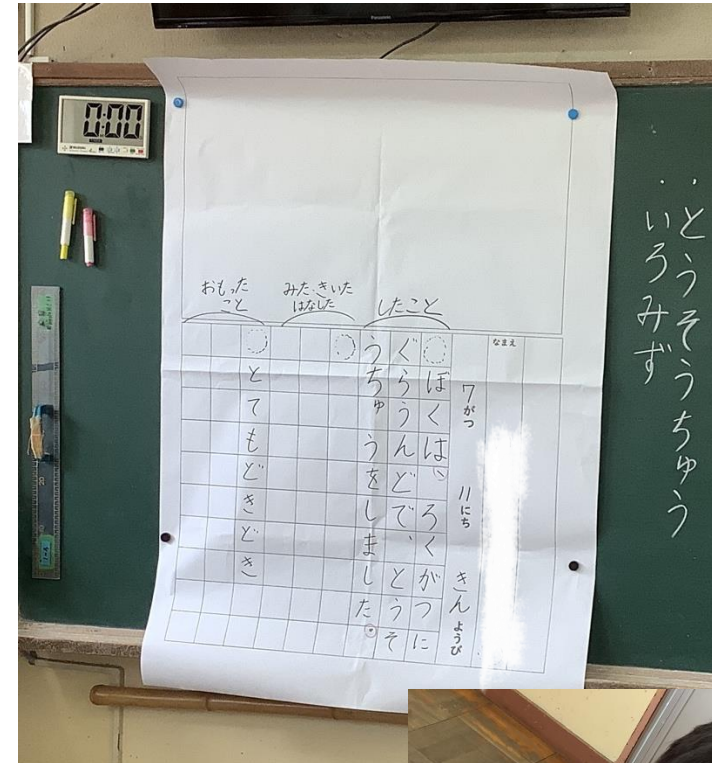
近くの友達と...

③視覚化

色をカテゴリーごとに分ける。



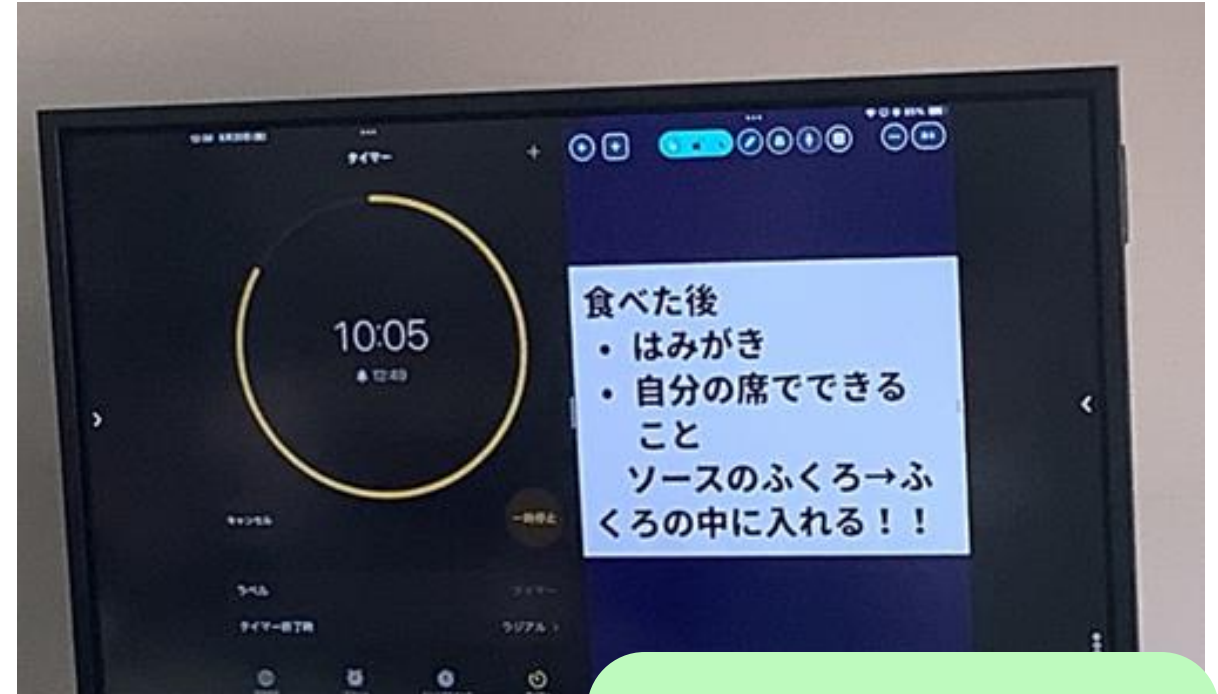
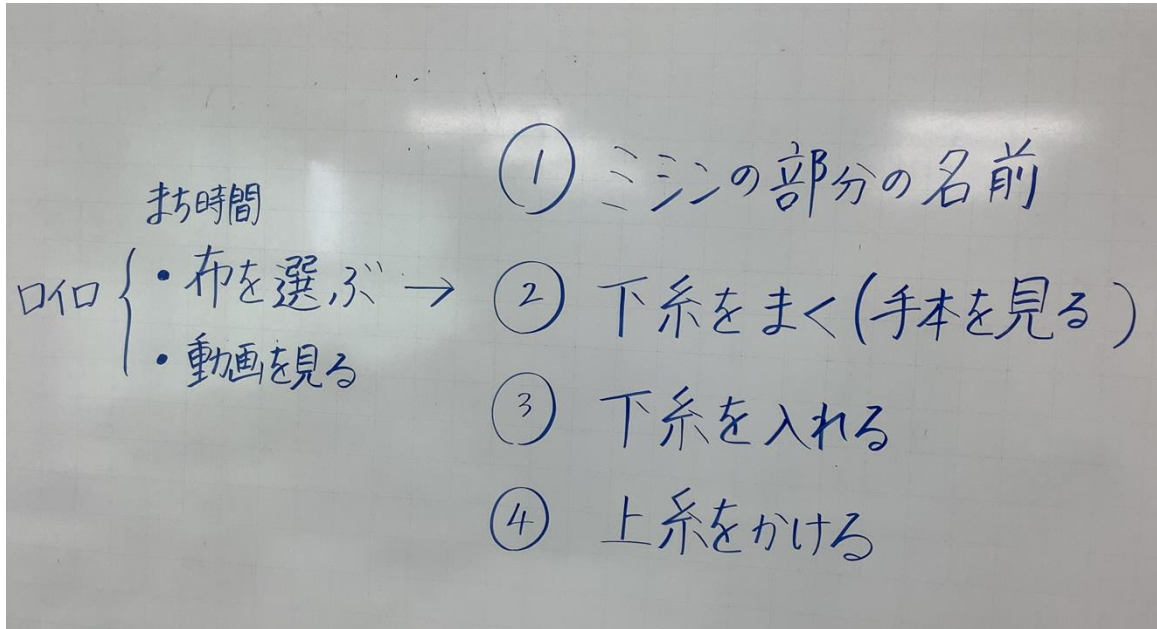
掲示物は大きく。



視覚支援：明確な指示

5年家庭科

給食の時間



食べる時間
あとどれくらい？

食べ終わったら
これをして待つ

④児童同士をつなぐしかけ

児童の発言に、指導者がすぐに返すのではなく、**他の児童に投げかける。**



指導者は、
コーディネーター役

⑤ 1人1人に合わせた支援の提示

オプションの指示

(児童が自分に最適な方法を選択できるもの)

1 学習方法の選択

「暗算が難しい人は、数図ブロックを使ってもいいですよ。」

「ちょっと難しいなあって思う人は、ヒントカードを見てもいいですよ。」

「(わり算のときに) 九九表を使ってもいいですよ。」

「文章を構成するのに、タブレットを使ってもいいですよ。」

⑤ 1人1人に合わせた支援の提示

ヒントオプション

5 次の分数を通分して大きさをくらべ、等号や不等号を使って式にかきましょう。

① $\frac{4}{9}, \frac{5}{12}$ ② $\frac{3}{4}, \frac{7}{8}$ ③ $\frac{7}{6}, \frac{10}{9}$

A $\frac{16}{36} > \frac{15}{36}$ A $\frac{18}{24} < \frac{21}{24}$ A $\frac{21}{18} > \frac{20}{18}$

6 次の分数を通分しましょう。

① $\frac{2}{5}, \frac{3}{4}, \frac{7}{10}$ ② $\frac{1}{2}, \frac{3}{5}, \frac{5}{6}$

A $\frac{8}{20}, \frac{15}{20}, \frac{14}{20}$ A $\frac{15}{30}, \frac{18}{30}, \frac{25}{30}$



5 次の分数を通分して大きさをくらべ、等号や不等号を使って式にかきましょう。

① $\frac{4}{9}, \frac{5}{12}$ ② $\frac{3}{4}, \frac{7}{8}$ ③ $\frac{7}{6}, \frac{10}{9}$

最小公倍数は 最小公倍数は 最小公倍数は

① $\frac{4}{9} \square \frac{5}{12}$ ② $\frac{3}{4} \square \frac{7}{8}$ ③ $\frac{7}{6} \square \frac{10}{9}$

6 次の分数を通分しましょう。

① $\frac{2}{5}, \frac{3}{4}, \frac{7}{10}$ ② $\frac{1}{2}, \frac{3}{5}, \frac{5}{6}$

最小公倍数は 最小公倍数は

① $\frac{2}{5}, \frac{3}{4}, \frac{7}{10}$ ② $\frac{1}{2}, \frac{3}{5}, \frac{5}{6}$

裏面がヒント入り

⑤ 1人1人に合わせた支援の提示

オプションの指示

(児童が自分に最適な方法を選択できるもの)

2 ノートをとる際の選択

(板書の☆印は必ず書く場所という約束)

☆印以外のところは書かずに、耳で聞いて頭に入れるのもいい。

⑤ 1人1人に合わせた支援の提示

オプションの指示

(児童が自分に最適な方法を選択できるもの)

3 早くできた児童へのさらなる課題

「めあてが書けた人は、次に〇〇のことを尋ねるから、考えておきましょう。」

「答えが出た人は、どうやって考えたか、考えをメモしておきましょう。」

「早くできた人は、チャレンジ問題に挑戦してみましよう。」

⑥前向きな声かけ

- ・ **未然**の声かけ × 「〇〇さん、早く書きなさい。」
 ○ 「〇〇さん、書いてる？」
- ・ **肯定的**な評価
- ・ 間違った児童への**フォロー**。間違っただで終わらせない、挽回の機会の確保。

教室が安心できる場所

まとめ

①学びを振り返り、言語化する。

(振り返りの視点、振り返りの意義の共有)

学びを思い出してアウトプット

→学習内容の定着


②児童と振り返りを共有する。

→新たな気づき

振り返りの視点シートの例

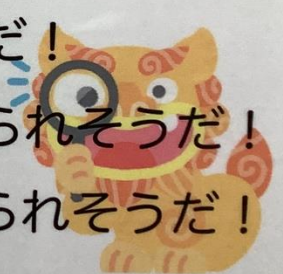
学びの **大発見** レベル1

- ・新しくできるようになった！
- ・今までしらなかった！
- ・友だちから聞いて、気づいた！



学びの **大発見** レベル2
大発見をどう使う？

- ・こんなときに使えそうだ！
- ・こうすればかんたんにできそうだ！
- ・こうすればもっとくわしく考えられそうだ！
- ・知っているやり方と組み合わせられそうだ！
- ・これからこんなことをやってみたい！





みんなが分かる・楽しい授業

みんなが安心できる学級

4 研究員の先生の声

本プロジェクトに参加して

- ・授業で大切なことを学ぶ中で、これまでやっていたことの理由や意図が理解でき、実践することがクリアになった。
- ・一人一人をイメージして、授業に向かうような手立てを考えることの大切さに気付いた。

本プロジェクトに参加して

- ・ オプションの考え方を知り、みんな同じことをさせるのではなく、子ども自身に自分に合うやり方を選択させるという考え方になった。

本プロジェクトに参加して

- ・ これまでからやっていた、未然防止（先手の指示）の声かけが、「褒める」を増やす手立てになると気付いた。
- ・ 授業の見通しの共有を確実にし、めあてまでに全ての児童を同じスタートラインに立たせることが大切。

本プロジェクトに参加して

- ・授業を見てもらうことで、自分とは異なる視点から助言を受けることがあった。今まで気付かなかった、**新たな視点**に気付くことができた。

本プロジェクトに参加して

- ・叱る頻度が減った。子どもにどう声かけをすればよいかと考えるようになった。
- ・みんなが安心して取り組み、達成感を持てるように、算数科にコース選択制を取り入れるようになった。

本プロジェクトに参加して

- ・ 経験年数と共に慣れが出てきている状況にあったが、授業を、客観的に見てもらい、学ぶ機会が得られたことがよい刺激になっている。
- ・ 自分の考えをアウトプットできる力、互いに考えを交差させる力を付けることが、主体的な学びにつながるのではと、現在挑戦している。

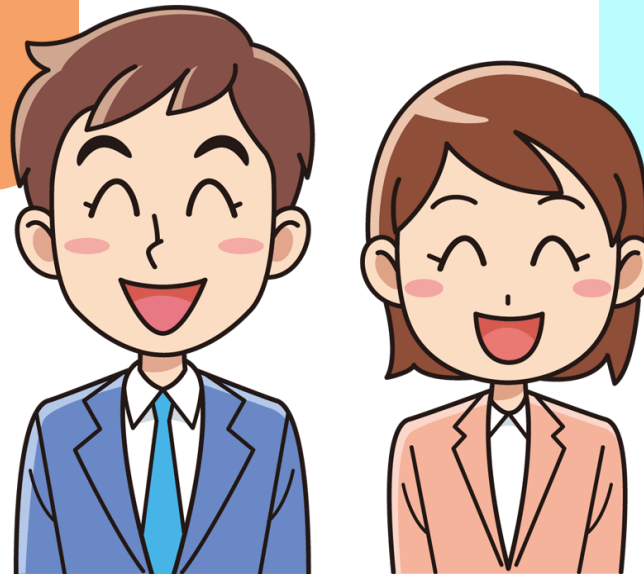
4 おわりに

子どもたちが、一番安心できるのは・・・

担任の先生が
笑顔でいること

日々、
いろいろなことはあるけれど

担任の先生が、
学級の子どもたち
を好きでいること



ご清聴ありがとうございました

